

岐大のいぶき

No.5

2003/APRIL

発行日：平成15年4月
発行：岐阜大学
岐阜市柳戸1番1
☎058-230-1111(代表)
ホームページ：www.gifu-u.ac.jp/

GIDAI NO IBUKI GIDAI NO

Published by GIFU UNIVERSITY

コンピュータ時代に思うこと

岐阜大学長：黒木登志夫 ————— 2

地域と大学

産官学融合センター ————— 3

話題の研究・活動

岐大発 オリジナル・オンリーワン技術

革新的新素材“カーボンマイクロコイル/ナノコイル(CMC)”

工学部教授：元島栖二 ————— 4

やりたいことは何でもやろう！

イタリア美術史からダンス、音楽、絵画、オブジェ、映像まで

教育学部助教授：野村幸弘 ————— 6

エッセー

なにやらゆかしすみれ草

医学部教授：清水弘之 ————— 8

授業風景

Think global, Act local「整形外科実習」

大学院医学研究科：伏見一成 ————— 10

研究室での活動「生産流通管理学特別研究」

大学院農学研究科：安井文崇 ————— 11

座談会

公開講座を通しての地域貢献 地域科学部 ————— 12

特別寄稿

21世紀COEプログラムがスタート

「野生動物の生態と病態からみた環境評価」

農学部教授：坪田敏男 ————— 14

大学への想い

“岐阜大学管弦楽団”の友人たち

客演指揮者：岡田 司氏 ————— 15

平成15年度岐阜大学公開講座 ————— 16



コンピュータ時代に思うこと

岐阜大学長 黒木登志夫



コンピュータが研究室に入ってきたのは1990年代のはじめの頃だったと思う。確か120万円位したと思うが、小さい箱形のマックが研究室に入った。しかし、パソコンがそばにありながら、私は触ろうとしなかった。1995年に『がん遺伝子の発見』という本を書いたが、原稿はすべて使い慣れた0.9mm、B2の速記用シャープペンによる手書き、それを秘書がワープロに入力した。

1996年の春、東大を定年になったとき、とうとう自分でコンピュータをしなければならなくなった。60の手習いである。それから6年余、あつという間にコンピュータに使われる身になってしまった。いまでは、コンピュータでないと文章が書けないし、E-mailがないと仕事にならない。

2000年に日本癌学会を主催したとき、できる限り電子化を行った。6,000人が参加し、2,800題の演題が発表されるというマンモス学会である。演題はホームページで受け付け、依頼状などはすべてE-mailを使う、などかなり徹底して電子化を進めた。応募演題2,813題中従来の紙による演題はわずか7題にすぎなかった。電子化は予算節減という点でも大きか

った。総計で2,000万円は節約できたと思う。

大学は会議が多く、しかもその資料がすべて紙で出てくる。着任したときに、電子化しようとして提案したが、まだできないでいる。とりあえず、会議資料は中央のファイルに保存し、委員はいつでもアクセスできるようにしたい。将来は、会議の際、それぞれの前にパソコンを置き、完全なペーパーレスにしたいと思っている。

学生に対するIT教育も大切である。現在、入学時に全員にメールアドレスを与えている。語学の教育にも、レポートを調べるにしても、コンピュータは欠かせない。大学内には学生が自由に使えるパソコンが相当数あるが、まだまだ不十分である。しかし、パソコンが普及すると別な問題が起こってきた。友人のレポートをコピー・ペーストする。あるいはホームページの記載をコピーして、レポートにする者が現れた。インターネットの情報の中には、かなり怪しげなものも混じっている。それを見分けるのは、結局は社会と学問に対する理解がなければならぬ。電子化の時代であるからこそ、深い理解と洞察力が求められている。基本的なことは、いつの時代でも変わらないし、変わるべきではない。



地域のニーズと大学のシーズをつなぐ産官学融合センター

「岐阜大学の知」を活用する場を広め、産・官・学の連携をより積極的に推進するため、その要として産官学融合センターが昨年の八月一日に設置されました。その初代のセンター長として活躍されている八嶋教授に、センターの機能や特色、岐阜大学の法人化との関係、さらにはそれを踏まえた今後の展望や抱負などについて語っていただきます。



八嶋 厚 産官学融合センター長
工学部社会基盤工学科教授

この度、地域共同研究センターが主体となつて産官学融合センターが発足しましたが、何がこれまでと大きく変わるのでしょうか？

八嶋 従来の地域共同研究センターとバーチャルシステムラボラトリー（VSL）が統合し、新しい組織となりました。この統合により、従来の地域共同研究センターが果たしてきた、大学と地域を結びつけるリエゾン機能、VSLが果たしてきた、大学シーズを用いて企業化促進を図るインキュベーション機能が二つになるとともに、総務部研究協力課職員をセンター内に配置することによって、「契約事項に関する大学の迅速で柔軟な対応をお約束する契約事務機能」も果たすことができるようになりました。これら三つの機能に加えて、「大学の知的財産の発掘・管理・技術移転を促進する

TLO機能」を新たに設けることにより、ワンストップ・ウィンドウを形成していきます。TLO機能の組織設計については、現在検討中です。本センターは、産官学連携について学内外からの相談に対して対処できるワンストップ・ウィンドウ（総合相談窓口）の形成を目指しています。

産官学連携に関する事柄のすべては本センターが窓口です。岐阜大学の「よろず相談所」としてお気軽にご利用下さい。

センターの発足は、国立大学の独法化も視野に入れたものと思いますが、それとのかかわりや独法化後にはさらに何が変わるのかお聞かせ下さい。

八嶋 大学の「知」を有効に活用し、産官学の連携のもと地域の活性化と大学の外部資金獲得が必要で、この趣旨のもと、文部科学省では来年度の概算要求として数十の大学に「知的財産本部」を設置することを目指しています。独法化後の大学組織の中では非常に重要な組織となります。文部科学省が描いたイメージは、学長もしくは副学長のもと、共同研究センターと研究協力課と連携をとるといったものです。本学のセンターは、文部科学省の描いたイメージとは異なり、四つの機能を融合した斬新なものです。独自の知的財産本部として高い評価を得ています。独法化後は、TLO機能を内部に組織し、「知的創出」「知的財産化」「知的財産による外部資金獲得」「新たな知的創出」といったイノベーション・サークルの構築のお手伝いをします。

「こつたセンター」は本学だけのものではないでしょうか？

八嶋 本学だけの組織です。本年度の全国共同研究センター長会議でも紹介し、独創的で先行的な取組として高い評価を得ました。

初代センター長としての抱負をお願いします。

八嶋 産官学融合センターは英語名 Collaborative Center for Academy/Industry/Government)にもありますように、「産業界、行政及び大学の「コラボレーション」を目指して発足しました。三者は、チームやパートナーといった水平的協力関係を保ち、持続的なイノベーションを共創（コラボレーション）することによって、地域の活性化に寄与しなければなりません。センターでは、先生方の研究開発と知的財産創出のために、いろいろなお手伝いをさせていただきます。

学外の皆様方に関しては、大学におけるシーズや教官情報を「顔が見える情報」として加工・更新しながらご提供していきたいと考えています。設立趣



旨にもありますように、「センターに行けば、何でも揃っている」というだけでなく、ワンストップ・ウィンドウを目指して頑張りたいと思います。「地域の活性化なくして、岐阜大学の活性化はあり得ない」とこのスタートガンのもと、産官学融合センターのメンバーは活動しています。地域の皆様方、どうぞ岐阜大学をご利用下さい。岐阜大学の教職員の皆様、どうぞ産官学融合センターをご利用下さい。皆様方からのお問い合わせをお待ちしております。

聞き手 安田孝志(編集委員長)



岐大発 オリジナル・オンリーワン技術 革新的新素材”カーボンマイクロコイル/ナノコイル(CMC)

工学部応用化学科

元島 栖二



大宇宙や大自然には渦巻きがいっぱい、
私達の身体も“うずまき/らせん構造”



渦巻き銀河星



巻貝

私達に快適で豊かな生活をもたらしてくれる科学技術の発展には、種々の高度機能を持つ新素材の開発が不可欠である。素材・材料には、粉末、薄膜、ファイバー、バルクなど種々の形態のものがあるが、生命体(DNA)の基本構造である3Dヘリカル/らせん状のものはない。我々の研究室では一九八九年、CVD(化学気相合成)による新素材の研究の中で、偶然にもこれまでの材料には全くない3Dヘリカル/らせん構造を持つ窒化ケイ素ファイバー(Si₃N₄)を発見(Nature, 339, 179(1989))し、翌年カーボンマイクロコイル(CMC)の合成にも成功した。現在、CMCを中心としたヘリカル/らせん構造物質の世界拠点として研究開発を進めている。この研究に対してこれまで外部から導入された研究費は約四億円、予算化された金額では十二億を超える。

一九九七年には、CMCの研究発表・情報交換のためにカーボン

マイクロコイル(CMC)研究会を設立した。法人会員は多種多様な企業・団体から六十社以上、毎回百名以上の参加者があり、外国からの参加者も含めて活発な研究発表・討論が行われている。その他、二〇〇二年には、科学技術交流財団及び名工大にCMC応用研究会が設置された。このような単一材料に対する研究会は、世界的にも例がなく、非常に注目されている。

一九九九年には、カーボンマイクロコイル(CMC)の実用化のため、全国八大学教官の共同出資によるシーエムシー技術開発(株)を設立し、岐阜大学発のオリジナル技術、世界オンリーワン技術として、新産業創生を目指して日夜努力している。

ナノテクノロジーが未来をひらく

ナノテクノロジー(超微細技術)とは、情報通信、環境、ライフサイエンス、材料など、広範な分野にわた

る横断的・融合的かつ総合的な科学技術であり、二十一世紀の新産業革命とも言われている。ナノメートル十億分の一スケールで原子・分子を操作したり、物質の構造や配列を創造・制御することにより、これまでの材料では得られなかった全く新しい新規かつ高度の機能を持った材料の創生、システム・技術の構築が可能となり、新しい二十一世紀をひらくことができる。

生命体がお手本

ナノテクノロジーの原点・手本は、生命体にあると言われている。私たち身体は、極めて精巧なマイクロマシン、これはナノテクノロジーの永遠に達し得ない究極の目標でもある。自然の創造主(神)が創ったこの究極の目標に向かって、研究者は日夜研究に没頭している。一歩でも神に近づき、人類に幸せをもたらすために。

生命体の原点はDNA

DNA(遺伝子)は右巻き二重



らせん構造を、また、たんぱく質は右巻き一重らせん構造をとることにより、遺伝情報を後世に伝え、我々の体を維持している。情報通信の担い手である電磁波、私たちの意識や思い(気)も、ヘリカル構造を持つエネルギー波であり、これがヘリカル構造をしたDNAに作用する。生命体の原点はDNAであり、DNAによりすべてが支配されている。DNAの原点は一重らせん構造である。

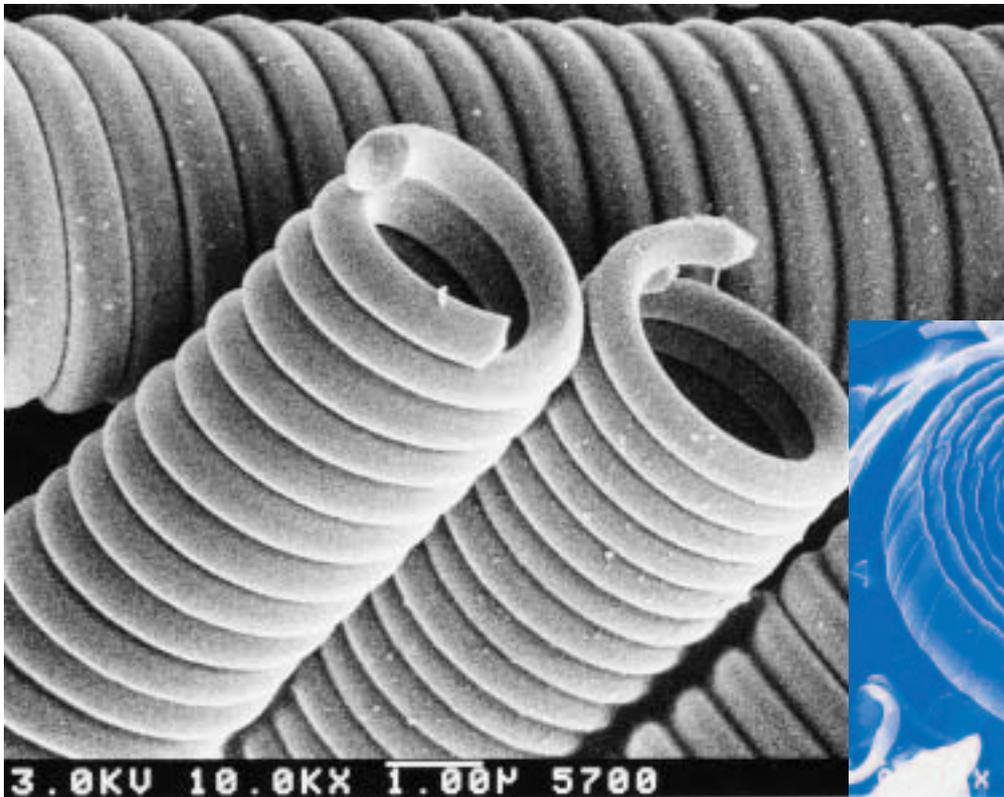
DNAと同じ構造を持つ カーボンマイクロコイル (CMC)

その多様な応用

CMCが新しい未来をひらく

○ アセチレンを触媒存在下、七五八〇〇℃で熱分解することにより得られるカーボンマイクロコイル(CMC)は、DNAと同じ二重巻きらせん構造を持つ新炭素繊維である。カーボンコイルに電磁波があたると、ファラデーの法則に従い電磁波を吸収し、誘導起電力・誘導電流を発生し、最終的に電磁波エネルギーを熱エネルギーに変えてしまう。特にギガヘルツ領域のマイクロ波をほぼ100%吸収できる。また、人口皮膚感覚センサー、マイクロセンサー・アクチュエータ、マイクロデバイス、エネルギー変換材、水素吸蔵材

キラル触媒など、多様な応用が可能な革新的新材料である。



代表的なカーボンマイクロコイル(コイル径は約5ミクロン)



同心円状に巻いたカーボンコイル

“うずまき・らせん”構造のもたらす輝かしい未来

渦巻き銀河、太陽や地球の動き、テレビ・ラジオ・携帯電話・電子レンジなどに使われる電磁波、つる性植物性や巻貝、あるいは私たち生命体を構成しているDNA(遺伝子)やたんぱく質など、多くのものが渦巻き・らせん構造をしている。自然の創造主(神)は様々な渦巻き・らせん構造をつくりあげた。しかし人類はこれまで、科学技術が高度に進歩した20世紀にも、このような構造物(材料)を作ることができなかった。21世紀に入り、我々はようやく渦巻き・らせん構造をした革新的新材料“カーボンマイクロコイル(CMC)”を作ること成功した。人類は、ようやく神の領域に踏み込むことができ、輝かしい未来が開けようとしている。科学技術の高度の進歩をもたらした多くの偉大な発明・発見は、“偶然”見出されたものが多い。また“失敗”の中から偉大な発見をし、ノーベル賞に輝いた人もある。誰にでも偉大な発明・発見のチャンスは十分ある。



やりたいことは何でもやるしー!

イタリア美術史からダンス、音楽、絵画、オブジェ、映像まで

教育学部
美術教育講座

野村幸弘



私は学部三年からイタリア美術の研究を始めて、一九八五年、大学院のときにイタリアへ留学した。それまではイタリア美術を、図版を見ながら、ということでは、本物を見ないで、研究していたわけである。今から思うと、それは研究と呼べるようなものではなかった。

実際、イタリアに行くこと、美術に対するこれまでの考え方が大きく変わった。美術は、図版に収めきれようなものではなく、都市、建築、生活の全体と密接にかかわるものだった。不思議なことに、日本ではそういつ当たり前のこと、うかつにも気がつかなかったのである。また美術は音楽や演劇、ダンス、文学、映画など、芸術のほかのジャンルと

もつながっていた。美術だけを研究する、そんなことは意味がないと思っただ。

それだけではない。芸術家は、建築から彫刻、工芸、絵画は言うまでもなく、音楽をたしなみ、俳優をつとめ、詩も書けば、論文も執筆する。万能の天才はひとりレオナルド・ダヴィンチにかぎらないことを知り、大きなショックを受けた。と同時に私は深い解放感をも味わった。

というのは、日本では、専門に集中せよ、二兎を追うものは二兎をも得ずと忠告され、いろいろなことには手を出すと、器用貧乏などと評されるからである。もちろん、それが間違っているとは思わない。けれども自分がやりたいこと、そしてやれることなら何でも、どんどんやればいい、そう励まされたような気がした。

日本に帰ってから、私は、専門の学術論文だけでなく、美術やダンスの評論も書き、そして書くだけでなく、「幻想工房」というアーティスト集団を結成して、実際に、ダ

ンスの振り付けや美術作品の制作に取りかかった。一九九四年のことである。

そのとき、私にとって重要だったのは、「芸術の場所」だった。どんなにいい作品でも、場所が悪ければ、場所とマッチしていなければ、死んでしまう。それもイタリアで学んだことだった。そこでまず私は芸術の場所探しを始めた。そういう目で見ていくと、ふだん見慣れていたなんでもない風景が急に魅力的に見え始めた。私の仕事場である大学ですら、そうであった。

「幻想工房」の最初の活動は、「失われた形態のための習作」というダンス公演で、これは大学附属図書館の中庭で行った。続くダンス公演「や、幻聴音楽会」と題した「コンサートは、神社や森の中で開催した。幻聴音楽会」というのは、演奏家が姿を隠し、どこからともなく音楽が聞こえてくるという、一風変わった音楽会である。これは、その後、舞台をコソクリート工場、廃屋、公園、草原などに移しながら、その場所

ならでは音楽を追求している。一九九七年には、「ロッド・ベインティン展」(岐阜・ギャラリー温)、「退場人物展」(大阪・光の教会)と題した絵画展、二〇〇二年の「野村幸弘と幻想工房の世界展」(岐阜・ギャラリーなつふ)では、約三十点のオブジェ作品の展示と、第十六回幻聴音楽会、「庭園の音楽」及び映像作品の上映会を行った。

最近では、「場所の音楽」と名づけた映像作品のシリーズや、他のアーティストとのコラボレーションによる映像作品を数多く手がけている。そのほか毎月一回、異なるジャンルの芸術家や、現代芸術に関心のある人たちの交流の場として、「岐阜大学芸術フォーラム」を教育学部美術棟の中庭で開いている。中部・東海地方初の芸術批評誌『REAR』の創刊も果たした。今年、イタリア美術史を映像作品として表現する仕事に取り組みうと考えている。



「失われた形態のための習作III - 略殺喪神譚」

1996.4.27 岐阜・伊奈波神社

神社の神門や石段を舞台に見立て、日本美術の中に表現されている過去の日本人の姿をもとに、ダンスの振り付けを行った。



第9回幻聴音楽会「草原の音楽」

1998.5.31 岐阜・川島町

木曽川河川敷の大草原を舞台に、手作り楽器のアンサンブル、草むらに転がっているドラム缶の即興演奏、そして遠くから勇壮に行進してくる音楽隊…。

ロード・ペインティング展

1997.4.27 ~ 5.1 岐阜・ギャラリー温

場所を移動しながらストーリーが展開していくロード・ムービーのように、展示会場の画廊までの道のりで見た風景を描く絵画シリーズ。



退場人物展

1997.10.27 ~ 11.3 大阪・光の教会

ヨーロッパの宗教絵画から聖なる登場人物をすべて取り去って描き、現代における宗教図像を提示した絵画シリーズ。

野村幸弘と幻想工房の世界展

2002.8.21 ~ 9.8 岐阜・ギャラリーなうふ

身近にある廃材を用いて、芸術のための場所を表現したオブジェ作品「PLACE」。



なにやらゆかしすみれ草

医学部 清水 弘之

奈良女子大学の教授であった数学者、岡潔（おがきよし）氏は、昭和三十五年に文化勲章を受章した。皇居での授章式の折、陛下が数学は「どうやってするの」と尋ねになつたところ、岡氏は即座に、情緒である旨答えたそののである。その答えに、陛下が「あ、そう」とおっしゃつたらしいが、果たしてその数学者の真意が伝わつたかどうか。式が終わり、新聞記者が岡氏に改めて、情緒とは何かと尋ねたという。それに対する岡氏の答えは、「野に咲く草がかわいいと思つ心」というものであった。

この話は、平成十四年十月東京で開かれた第六十回日本数学会総会の教育講演で聞いた。演者はお茶の水女子大学理学部数学科教授の藤原正彦氏で、演題は、論理と情緒。岐阜大学長黒木登志夫先生が座長であった。数学上の発見がどのようになされるかの説明の中で、ヨーロッパの有名な数学者の名前に混じつて、数回くり返されたのが岡潔氏の名前であり、岡氏にまつわる逸話のついでに前述の内容であったといつわけである。

ある課題を一生懸命考える。頭の中でいろいろな考えが錯綜するのだが、なかなかまとまらない。ちょっと、真つ暗な箱の中で何かが飛び回っているようなものである。そこにある種の光が差し込んで、その何かがパッと見えたら、たちまち分かる。そして、その後で論理が瞬時に組み立てられる。それを文字や数式にするのに時間がかかるだけである。その差し込む光を情緒といつ、というのが学問上の発見についての藤原氏の講演概要であった。

自分のやっているのは作業であつて研究とは程遠いと毎日嘆息している私には、諦めて学問から手を引けと言われているように思えた。しかし、妙に気になる内容で、頭のどこかにしつかりと焼き付いてしまつた。

岡氏は、フランス留学中数学の論文は全く書けなかつたそののであるが、帰国後にどういつ課題に取り組めばよいか分かつたことが最大の収穫であったといつ。また、その前に芭蕉を勉強しておく必要性に気がついたといつ。芭蕉の何を勉強すれば情緒が豊かになつて、数学上の発見にどうつながるのか、疑問は深まるばかりであるが、もし俳句の五七五の中に自然と人の心の情景が凝縮されているとすれば、そこそが情緒であり、それを五感で、いや六感でつかみ取れとあつしやるのであつた。

そういえば、芭蕉には、山路来てなにやらゆかしすみれ草」といつ有名な句がある。例えばこの「ゆかしさ」が分かれればよいのであるとか。藤原氏による暗い箱の中に差し込む光とは、閃光（インスピレーション）のようなものかと最初は思ったが、もっと穏やかな光であるかもしれないと、今では思つてゐる。

Think global, Act local「整形外科実習」

整形外科は人口の高齢化や文明の発達により、近年飛躍的に需要が高くなっています。専門範囲はたいへん広く、小児および成人の骨・関節疾患、脊椎脊髄疾患、リウマチ疾患、骨・軟部腫瘍、手の外科、末梢神経障害、交通事故・労働災害による外傷、スポーツ障害、骨粗鬆症、リハビリテーションなどの分野をカバーします。

整形外科教室では、臨床実習（ポリクリニックの略でポリクリと呼ばれています）の5年生を対象に、現場を重視した教育が行われています。ポリクリ中は学生と研修医がチームを組み1日行動を共にし、整形外科医の忙しい業務を経験します。ベッドサイドで実際の診察技術や、治療法を学び(写真1)、創傷処置や手術にも立ち合います。縫合などの外科系基本手技、手術前後の全身管理、救急処置はもちろんですが、プラスチックモデルを用いた関節鏡手技の習得など整形外科特有の習得項目があります(写真2)。

学生や研修医がすべての分野を履修できるように、週に1回行われる教室全体のカンファレンスが重視されています(写真3)。厳しい中にも明るい雰囲気があり、めずらしい疾患や診療上重要な疾患は、学生にも理解できるように詳しく解説されます。今後、整形外科以外の専門科に就く学生にとっても実際の現場での知識は、将来非常に役立つものとなります。医療を行う者として整形外科が素晴らしいと思う点は、機能を治す科であるので、患者さんが良くなって帰って行く姿が目に見えてわかるということです。膝や腰が痛くて歩けなかった人が自分の行った手術で良くなり元気に歩いて退院していくのです。とてもやりがいのある外科系専門科であるという印象を持つ学生も多いようです。

大学院は最低2年の臨床研修を終え、ある程度医師としての診療技術を身につけた後に入学します。将来の医療の発展を目指し、各チームに分かれて骨・関節疾患や脊椎疾患に関連する研究、骨腫瘍の研究、再生医学の研究、脊椎や関節のバイオメカニクスの研究を行っています(写真4)。研究成果を世界に向け発信しようと、日夜頑張っています。

大学院医学研究科博士課程2年(外科系専攻運動器外科学)
伏見一成



1

病棟回診で実際に患者さんに触れる。下肢の創外固定をベッドサイドで学ぶポリクリ学生。



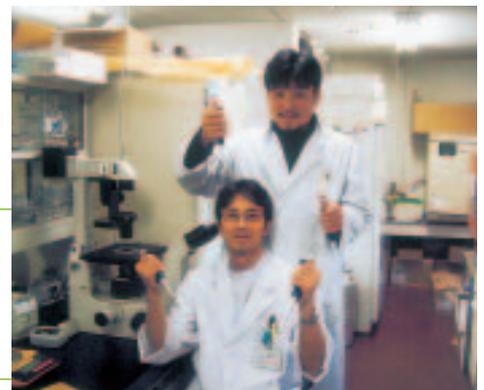
2

研修医によるプラスチックモデルを用いた関節鏡手技の研修。



3

教室全体のカンファレンスに参加。



4

研究室の大学院生。

大学生活で最も充実している研究室での活動「生産流通管理学特別研究」

生鮮農産物は、収穫後の時間経過と共に品質が低下してしまいます。そこで私たちの研究室では、「流通を科学すること」に軸足を置き、収穫後の農産物をいかに高品質に保ったまま生産者から消費者に流通させるかについて研究しています。農産物の品質といっても、栄養成分、外観、堅さ、香りなど様々な指標があります。そのため測定方法もさまざまであり、私たちの研究室でも、白衣を着て実験室で試験管を片手に化学分析するグループや、流通現場で分析機器を駆使して品質を測定するグループなどがあり、さまざまな体験を通じて学ぶことができます。

この研究室の一番の苦勞は、収穫後も農産物は生きているということです。そのため、農産物の生理現象に合わせて実験を組み立てなければならず、一日中農産物に付きっきりで実験して、研究室で朝を迎えることも珍しくありません。

研究室活動の特徴は、なんといっても教科書の内容を覚えるだけの授業とは異なり、自分の考えを基に自由な環境で実験して仲間や教官と議論ができるということです。目的を達成するための実験方法や実験区を自分で設定することはとても大変なことです。さらに科学的に満足できる結果は簡単には得られません。けれども試行錯誤の末、十分な研究成果が出たときは言葉では表現できないくらい感動します。

研究室での毎日の生活は、時間を持って余していた大学3年生までの生活と比較すると非常にハードです。けれども常に新しい発見があり、誰もわからないことを発見できるので、とてもおもしろく充実した日々を送ることができます。

大学院農学研究科修士課程2年
安井文崇



収穫後農産物の品質指標となる呼吸速度をガスクロマトグラフィーで分析します。



温度制御された冷蔵庫内にピーマンを貯蔵して品質管理に関する実験を行います。

トマトの生産現場に出向き、実際の流通規模で鮮度保持実験を行います。

公開講座を通しての 地域貢献

司会：林 正子（岐阜大学地域科学部 日本近代文学・地域科学部公開講座委員会委員長）
出席者：桑原義男（放送大学学生）
奥田孝道（協会職員）
村瀬照代（主婦）
大野としよ（岐阜市読書サークル協議会会長）
竹川里佐子（小学校教諭）



林 *この座談会は、平成十四年度岐阜大学公開講座「近代日本の人物像 先人に学ぶ」（地域科学部企画）（十月十九日、二十六日、十一月二日、九日、受講者六十六名）の最終日、講座終了後に実施しました。四週にわたる公開講座

へのご出席、どうもお疲れさまでした。この座談会では、今回の講座を受講していただいたきつかけやご感想、また公開講座による大学の地域貢献の在り方などについて、皆さんのご意見やご要望をお聴かせいただければ有り難いのですが。

桑原

地域科学部企画の公開講座は三回目の受講になります。最初は県の広報誌で講座のことを知り、二回目からは直接ご案内をいただいています。退職後、放送大学の学生として学んでいますので、今回の講座は生涯学習の目的で受講しました。

大野

岐阜市読書サークル協議会のメンバーで、日頃から読書を楽しんでいます。今回の講座は人物像に焦点を絞っていらっしゃるところに関心をもち参加しました。

村瀬

大学で何十年ぶりの授業を受けさせていただきました。子供たちからも大学で学ぶ楽しさを聞かされていましたが、今回は自分自身で実感できて本当に良かったです。

奥田

私も団体職員として勤める傍ら、放送大学で学んでいます。今回の講座では、先人の生き方を学び、感動するきっかけを与えていただきました。将来に向けての道が開けたような思いです。

竹川

昨年を除いて地域科学部の公開講座には五回参加させていただいています。私は岐阜大学教育学部社会科教育の卒業生なのですが、教養部時代の授業がとても充実していて、地域科学部に移籍なさった先生方の講義を、卒業後も折に触れて受講させていただいています。

村瀬

このような機会に地元

桑原

今年度の講座は受講者も多くて、熱気を感じました。地域科学部という学部の性格上、もともと地元への存在意義を宣伝しコミュニケーションの機会を増やしていただけると有り難いです。

奥田

いただいたパンフレットから察するに、地域科学部で勉強すると、現代の社会がどうあるべきか自分自身の考えを鍛えることができるようになるのではないのでしょうか。それぞれの学問分野が光っていると同時に、学際



竹川

地的な勉強ができるのが地域科学部の魅力ですネ。

私わたしは小学校の教員として勤めていますが、専門を究めるとともに、教養を身につけることができる学びの場ということで、地域科学部はとても魅力的な学部です。公開講座は私にとっては大学の授業の延長で、教養の雰囲気ふんいきを満喫できるのが最高です。

大野

多くの国立大学で教養部が解体したのは、本当に残念でした。しかし、地域科学部の多様な研究分野の先生方が「近代日本の人物像」と題して開講してくださった今回の講座では、先人の生き方を学ぶことを通して、その時代の社会や文化を学び、現代という時代に私たちがどのように生きていくべきかということを考える、文字どおりの教養の力を身につけさせていただいたように思います。

奥田

定年退職をして二回目の職に就いている私も、受講を通して自分の考え

を改めて組み立て、自己を高めることができましたのを有り難く思っています。以前は望んでもなかなか勉強する余裕がなかったわけですが、先生方の講義をうかがうとともに、聴講生の仲間とも意見交換をし、交友の輪を広げています。ぜひ地域科学部から全国に発信していただき、大学と地域の人間が一体となつて、日本の進むべき方向を模索する道を拓ひらいていってもらいたいですネ。資源のない国にとつては人材の育成が何よりです。技術や教育の現場で地盤沈下が進行している現代において、三代かけての教育というのでしようか、自分自身も社会経験を生かして、地域の子供たちの教育に貢献できればと願っています。

村瀬

私も教養を重視する皆さんの意見と同じで、学ば人間にとつて、初めから専門を強調し過ぎることあるいは専門がすべてであるかのような風潮には問題を感じています。こ

竹川

れからは大学でも、教育を受ける側の身になっての教育の在り方を考えていっていただきたいですネ。今回の公開講座では二十代から八十代までの受講生ということでしたが、相対的に若い世代の参加者が少ないことを残念に思いました。地元の人々とともに学生が学ぶ機会となるような公開講座も、これからはあつてよいのではないのでしょうか。

林

お疲れのところ、有意義なご意見の数々をお聴かせいただき、本当にありがとうございました。大学の使命や役割のうち、地域社会との交流・連携という観点から、公開講座が地元の方々との対話やコミュニケーションの重要な機会として重要な意味をもつとともに、研究・教育の発展のうえでさまざまな可能性を孕はらんでいることを、改めて痛感させてい

ただきました。他の受講生の皆さんからもいろいろなお言葉や具体的なご要望をいただいていますので、また来年度に向けて、構成員一同で魅力的な講座を企画したいと思っています。本日はどうもありがとうございます。



左から大野氏、村瀬氏、桑原氏、林教授、奥田氏、竹川氏

21世紀COEプログラム 「野生動物の生態と病態からみた環境評価」がスタート

農学部獣医学科 教授 坪田 敏男(COEプロジェクト・サブリーダー)

本年度の文部科学省21世紀COEプログラム(学際、複合、新領域)に申請した「野生動物の生態と病態からみた環境評価」が採択されました。本事業では、自然生態系を代表する野生動物に焦点を当て、彼らの生態や病態を明らかにしながら、その背景にある自然環境の評価を行うことが大きな目標です。とくに従来 of 獣医学の中ではあまり扱われることのなかった野生動物に対し、近年新しく台頭してきた野生動物医学という学問を通じてこのようなテーマに取り組みうという点が、他とは違うユニークで特色のある事業と評価されたようです。

21世紀は環境の時代と言われていますが、回りを見れば生物多様性の喪失や環境汚染物質の蔓延、さらには地球温暖化、酸性雨、森林破壊、移入種問題など、自然環境の悪化が目につくばかりです。現代に生きるわれわれ



クマ冬眠穴調査

には、豊かで健康な自然環境を次世代に残していく責務があります。その自然の豊かさや健康度を測るバロメーターになってくれるのが、野生動物だと思います。すなわち、彼らが自然本来の姿で健康に生活していることが、われわれ人間の豊かな生活につながるものと思います。



ニホンザル

本COEプログラムは、自然環境の健康を野生動物の生態と病態という切り口で見つめようというものです。野生動物の中には極端に数を減らし、絶滅に瀕している種がいます。その原因として人間の開発行為や人間が作り出した化学物質による影響が言われています。一方では、人間の活動に伴って新たな感染環が成立し、これまでにみられなかった感染症が野生動物や家畜、場合によっては人間に伝播することがあります。これらは、いずれも自然本来の姿から逸脱したもので、人間の手によって引き起こされた害は人間の英知によって解決される必要があります。

今回のCOEプログラムの採択を契機に、岐阜大学では野生動物医学の拠点形成をめざし、世界レベルでの研究の活性化、大学院レベルでの専門家の養成、また地域的なつながりやグローバルな連携を維持して社会問題に対処していきたいと思ひます。

21世紀COEプログラム

世界的研究教育拠点の形成のための重点的支援のこと。第三者評価に基づく競争原理により、世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進するために、文部科学省が平成14年度から実施したもの。

詳細は http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/coe/index.htm

” 岐阜大学管弦楽団 “
の

友人たち
たち

客演指揮者
岡田
司



この国では今や瀕死の状態にあるクラシック音楽。
しかし、その響きを自らの手で作り出したいという若者たちがまだここにもいます。
“ 岐阜大学管弦楽団 ”の友人たちです。

私は彼らと三度の演奏会を共有しました。

初めて会った彼らはいへん幼く思えました。もちろん音楽を捕え、演奏し、聴き手に提供するという面においてでの話ですが...。
一人一人は、なかなかの音楽おたくであり、なかには驚くほどの名手もいました。
だが、オーケストラがなおかつ一つの共同体であることは言うまでもありません。

音楽的に同じ言葉を同じ文法のもとで話すことが必要とされるわけですし、またその表現には個人的にも団体としてもかなりのテクニックが要求されることになります。

しかし、学生たちは黙々とその壁に挑戦し成長していきます。そして四年間(彼らにとってはあまりにも短い時間と言えます)の努力は新しい世代に受け継がれ、彼らのオーケストラの小さな歴史となっていくのです。

このささやかな歴史のいぶきを聴きに、皆様も一度お出かけになませんか。

岐阜大学管弦楽団の活動

演奏会は年に2回(7月にサマーコンサート、11月又は12月に定期演奏会)

その他に、岐阜大学入学式・卒業式に出演、他大学等との合同演奏会、新入生歓迎演奏会

岡田 司氏



指揮法を斎藤秀雄、山田一雄、手塚幸紀の各氏に師事する。

1977年、広島交響楽団を指揮、以後、国内主要オーケストラを次々に指揮し、いずれも好評を博す。

1979年、アメリカのタンゲルウッド音楽祭において小澤征爾、L.バーンスタイン両氏の指導を受ける。

帰国後は二期会等のオペラ公演で、W.サヴァリッシュ、Z.コシュラー、朝比奈隆、小澤征爾、若杉弘 各氏等のもと副指揮、合唱指揮を務め、その手腕を高く評価された。

1881年、関西二期会でプリテン「ねじの回転」を関西初演してオペラ・デビュー。

現在までに「魔笛」「セヴィリアの理髪師」「魔弾の射手」「蝶々夫人」などを指揮して着々とオペラ界でも地歩を固め、ますます充実した意欲的な活動をみせている。

1987年、名古屋フィルハーモニー交響楽団の指揮者を経て、1990年からは大阪センチュリー交響楽団の指揮者を歴任、同オーケストラの創設に立ち会った。

平成15年度岐阜大学公開講座

岐阜大学で平成15年度に予定されている公開講座について紹介します。
担当部局へお気軽にお問い合わせください。

講座名	受講対象者	開設日	受講料	担当部局電話番号
免許法認定公開講座 国語科教育特論	現職教員 (3年以上の教職歴がある方)	6月7日(土)~22日(日)	10,200円	教育学部 058-293-2203
免許法認定公開講座 図画工作・美術科実践研究		6月7日(土)~22日(日)	10,200円	
免許法認定公開講座 保健体育科教育特論		6月7日(土)~22日(日)	10,200円	
免許法認定公開講座 数学科教育特論		6月21日(土)~7月6日(日)	10,200円	
免許法認定公開講座 社会科教育特論		6月21日(土)~7月13日(日)	10,200円	
免許法認定公開講座* 学校カウンセリング特論		6月21日(土)~7月31日(木)	10,200円	
免許法認定公開講座 食物学教育研究		6月28日(土)~8月8日(金)	10,200円	
免許法認定公開講座 実践音楽教育特論		7月24日(木)~8月30日(土)	10,200円	
免許法認定公開講座 異文化理解国際教育特論		7月28日(月)~8月7日(木)	10,200円	
免許法認定公開講座* 学校経営学特論		8月10日(日)~20日(水)	10,200円	
免許法認定公開講座* 教育情報論		8月18日(月)~28日(木)	10,200円	
免許法認定公開講座* 教材開発論		8月19日(火)~29日(金)	10,200円	
免許法認定公開講座 発達障害児指導法研究		10月4日(土)~26日(日)	10,200円	
免許法認定公開講座 教材開発特論		10月18日(土)~11月30日(日)	10,200円	
免許法認定公開講座 理科教育特論		11月29日(土)、30日(日) 12月6日(土)、7日(日)	10,200円	
火星大接近:望遠鏡を作って観察	小・中学生	7月19日(土)、8月30日(土)	5,200円	
近代日本の人物像	市民一般	9月20日(土)、27日(土) 10月4日(土)、11日(土)	7,200円	地域科学部 058-293-3003
先端技術を観る、創る - 電気電子工学科 -	市民一般	6月21日(土)	6,200円	工学部 058-293-2365
ネットで学ぶ - eラーニングの現状と課題 -	市民一般	8月23日(土)	5,200円	
熱帯に生きる人々の農業と自然 - 失われるものと創出されるもの間で -	市民一般・ 国際協力関係者・学生	10月4日(土)	6,200円	農学部 058-293-2834
初めてのPC-UNIX	市民一般	7月26日(土)	5,200円	総合情報メディアセンター (生涯学習システム開発研究部門) 058-293-2284
ADHD(注意欠陥・多動性障害)の 子どもを考える	市民一般	11月29日(土)、12月6日(土)	6,200円	

*印の講座は、通信ネットワークシステムを用いて本学会場と遠隔会場を結び、同時授業を行います。

編集後記

第4号から岐大のいぶきにかかわっていますが、編集のたびに大学とはまさに知の宝庫を実感させる多様な個性に感動しています。それを少しでも多くの人に伝えられるよう編集に努めていますがいかがでしょうか？ 御意見等をお寄せいただくようお願いいたします。

今号では、視点を広げて「話題の研究」のページに「話題の活動」を含めるとともに、キャンパスマップシリーズの終了に伴い、「特別寄稿」と「大学への想い」のページを新たに設け、学内発信のホットな話題と学外からの視点を提供していただくようにしました。(安田孝志)

岐大のいぶき編集委員会

岐大のいぶきについてのご意見・ご要望をお待ちしています。

委員長 安田孝志(工学部)
委員 星博昭(医学部)
松田好美(医療技術短期大学部)
天谷孝夫(連合農学研究科)

岐阜大学総務部総務課広報室
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL 058-230-1111(代表) 058-293-2009(D.I.) FAX 058-293-2021
E-mail kohositu@cc.gifu-u.ac.jp

表紙: 代表的なカーボンマイクロコイルを画像処理したもの。

広報誌名の由来: 「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹山と活動をもよおす気分・生き・活気を意味する息吹をかけており、岐阜大学の「いぶき」を感じてほしいという願いが込められています。